

## 第8章 図書館および図書・電子媒体等

### (図書・図書館の整備)

- A群・図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性
  - ・図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性
  - ・学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性

### A群・図書館の地域への開放の状況

京都文教大学図書館は1996年4月に京都文教大学の開学にあわせて、普照館1階に開設され、その後、2000年4月に大学院の開学にあわせて、常照館1階に大学院図書室を開設した。なお、同じキャンパス内に京都文教短期大学の図書館が設置されているが、学生・教職員はどちらも同じように利用でき、利用者側からすれば1つの図書館として見る事が出来る。また電算化された蔵書目録検索(OPAC)も共用しており、蔵書検索が横断的に出来る仕組みになっている。さらに資料の収集についても重複を避けるようにしている。従って、一部現状の点検項目で必要と思われるデータについては短期大学分も加えている。

学生の主体的な学習を促進するため、利用し易い図書館運営を目的としている。図書資料の保存機能だけでなく、学習環境として長時間の滞在利用型の図書館を目指しており、図書館の位置、開館時間に対する配慮をすると共に、図書館としては小規模なため集書内容、環境整備等において利用者の要望や時代の変化に素早く柔軟に対応するように心がけている。

収蔵構成は、従来文化人類学・臨床心理学に関する専門領域を中心に集書してきたが、現代社会学科の開設に伴い社会科学系の領域を加え、更に1つの大学図書館として、専門分野以外の周辺領域についてもバランスのとれた蔵書構成を目指している。

大学院図書館については、大学院生の利用便宜を図る目的で大学院生の共同研究室のある常照館1階に設置している。

## 1. 組織と運営

### (1) 業務体制

図書館のもとに図書館の運営を行う図書課と、情報システムの運営・情報教育支援を行う教育情報課がおかれている。他大学の図書館部門と情報センター部門の統合化の流れを受け、本学も2000年4月に、開学当初より総務課が行っていた情報関連業務を情報図書課に移動し、メディアセンター的な組織体制になった。その後2004年4月より情報教育及び情報設備のより充実した運営を図るため、2つの課に分かれ、現在に至っている。

2001年度より業務の効率化を進めるため他部署に先駆けて、短期大学図書館との業務提携を開始した。従来大学図書館長・短期大学図書館長はそれぞれの組織から選ばれていたが、2002年度より、大学・短期大学の教員から図書館長と副館長を選出することになった。現在図書館長は大学から、副館長は短期大学から選ばれている。ただし規程上は明記されているわけではなく、また実際の運営も大学・短期大学とも個別に遂行しているのが実状である。

大学図書館の職員体制は以下のとおりである。

図書館職員数

館長 1名（兼任）

図書課

専任職員 3名、特任職員 1名（内 司書資格者 1名）

業務委託による派遣職員 3名（内 司書資格者 3名）以上はフルタイム勤務

パート職員 2名（内 司書資格者 1名）

（参考） 短期大学図書館 副館長 1名（兼任）、専任職員 3名（内 司書資格者 3名）

（2）運営

図書館委員会

規程により図書館長を委員長とする図書館委員会（原則隔月開催）を設置している。図書館委員会は、館の運営・選書・予算の使用方法等について協議を行っている。また 2001 年度より情報委員会が図書館委員会に統合され、本学の情報教育と学内の情報環境の整備等の事項も協議している。しかしこの際に委員会の規程は変更されていなかったため、今後規程の整備を行う必要がある。

図書館委員会の構成員

図書館長、各学科 2 名、情報教育担当教員 1 名、教育情報課長、図書課長、図書係長（書記）

（3）業務委託

2003 年 4 月より効率的な運用と経費節減のため業務の一部を派遣会社に委託している。

図書館の開館時間が大学・大学院とも 9 時～21 時までのため、主に大学院図書室の閲覧業務と大学図書館の時間外開館の閲覧業務を委託しているが、その他に状況により寄贈図書目録作成・図書資料の整理業務等、図書館の業務全般についても従事している。

派遣職員の勤務ローテーション

業務委託は以下の体制で行っている。

スタッフ A 大学図書館 12 時～21 時まで

スタッフ B 大学院図書室 9 時～17 時まで

スタッフ C 大学院図書室 12 時～21 時まで

業務委託による問題点

- 2003 年度より業務委託を開始したが、派遣人数 3 名の枠の中で、1 年半の間にのべ 8 名のスタッフの入れ替わりがあり、引き継ぎ等、その都度業務が分断されている。
- 他大学でも同じような悩みを抱えていると聞くと、専任職員より委託スタッフの方が、知識・経験が豊富なこともあるため、委託業務に対する大学側の日常の評価・検証が困難になる場合も今後発生することが考えられる。
- 現在専任職員で司書資格を有する者が 1 名と少なく、通常の職員の異動対象にもなっているため、学生の利用案内・相談業務（レファレンス）あるいは目録作成等、本学図書館での知識・経験を必要とする業務の質の低下をきたすおそれがある。

#### (4) 短期大学との業務提携

業務の効率化をはかるため、2001年度より短期大学図書館と業務提携を行っている。

##### 2004年度の主な業務分担

図書の受入	短期大学
雑誌の受入	短期大学
目録の作成	大学(パート職員)
図書の装備・整備等	大学(パート職員)
相互利用	大学

また、大学と短期大学の職員の定例の連絡会を毎月行っている。2004年10月より、従来隔週で行っている大学の館長連絡会(館長・図書課長・係長・教育情報課長)に、短期大学より副館長と図書係長がオブザーバーとして出席し、情報の共有を図ることとした。

短期大学との業務の提携は、運営組織や予算が違っているので、これ以上の提携は困難な状態である。また、新規事業を開始するに当たっても大学と短期大学で調整がつけば問題ないが、つかない場合は利用者へのサービスが異なってしまうことも考えられる。現在、大学・短期大学全体の事務組織の統合が検討されており、その中で図書館間の事務組織の統合の検討を行っている。

## 2. 蔵書資料

### (1) 蔵書構成

設置学科の性格上、臨床心理学や文化人類学関連の専門領域の資料は数多く体系的に備えている。しかし、学生数が少なく、単科大学で、しかも開学してまだ8年ということもあり、蔵書数が8万冊程度(大学図書館のみ)と絶対的な数が少ない。短期大学の図書館を利用できるとはいえ、学問分野を問わずまた学生数の多少とは関係なく、一定の知的財産を所蔵し、それを利用者に対して提示するにはまだまだ十分ではないと思われる。

2004年4月に現代社会学科の開設に伴い経済・法律・社会学関連の図書が2千冊ほど購入された。今後、この分野は他学科でも関連領域として利用が見込まれるので、今後充実していく必要がある。

\* 以下の表を参照 別表1 過去3年間の蔵書数

別表2 過去3年間の受入資料数及び図書予算

別表3 分類別の蔵書数一覧

別表3のように、「心理学」、「社会・福祉・女性・労働」、「風俗習慣・民俗学・民族学」、「医学・精神医学」の分野の図書が充実している。短期大学を加えると「教育・学校」、「日本文学」の分野が加わる。「精神医学を除く自然科学」、「技術」、「産業」といった理科系が少ないのは学科の内容上当然であるが、広く一般的な知識も必要と考えられるため、現在学生に親しみやすい新書での購入を進めている。

特に「ジャーナリズム・新聞・マスコミ」、「哲学」、「政治・外交・国際問題・自治体」、「法律」、「経済・企業」の分野が不足しているので、今後重点的に補充していく計画である。また、学生から希望の多い文学は、費用も安価で利用も多い文庫本での購入を進めている。

学問分野は異なるが短期大学図書館と限られた予算を効率的に使用するため、購入する図書を調整しており、重複するのを避けている。

## (2) 資料の収集と予算の執行

図書の選書については、年間の予算配分を決め、主に図書館分は図書課職員が、大型資料・学科配分は図書委員を通じて教員が選書している。予算の執行状況は図書館委員会で随時報告され、計画的に購入している。従来は12月ごろに発注と納品が集中し業務が繁忙したが、3年前から公認会計士の指摘もあり、年度の図書予算は当該年度の学生に利用できる図書を購入するように心がけている。

\* 別表4 2004年度の図書予算配分表 を参照

一部の研究用の予算を除き、基本的に学生向けに授業に関連した学習用図書資料を中心に購入している。

### ・大型資料費

教員の研究用資料費として重点的に整備するための予算で、1件100万円以上200万円までの範囲で購入している。教員より希望を募集し、図書館委員会の審査を経て決定している。また文部科学省の特別補助金「研究設備」に申請を行っている。

2003年度 ビデオライブラリー「現代の社会と信仰/宗教と民族」

2002年度 International Encyclopedia of the Social and Behavioral Sciences.

の2点が特別補助に採択された。

## (3) 電子ジャーナル・オンラインデータベース

2000年度に学内LANが整備され、また情報システム部門と統合したことにより、図書館が持つ学術情報の電子化・ネットワーク化を積極的に推進することにした。特に図書館に来なくても、研究室・PCルームに設置されたパソコン、あるいは学内の情報コンセントを経由して各自のノートパソコンで利用できる電子ジャーナル・外部データベースの購入を進めている。これに伴い、毎年価格の高騰が激しい洋雑誌の一部を従来の冊子体の購入を中止し、電子ジャーナル・外部データベースに移行することも始めている。

### 2004年度の契約数

電子ジャーナル契約数 74

主なもの：NACISIS-ELS、Science Direct

外部データベース契約数 9

主なもの MagazinePLUS (雑誌記事索引)、LEX/DB (法律情報)、朝日新聞 (聞蔵)

日経テレコン21、ProQuest PsycINFO+Psychology journals (心理学系)

Ebsco Host sociological collection (社会学系)

CSA Sociological Abstracts (社会学)、Westlaw (アメリカの法律情報)

## 3. 図書館の施設・設備

図書館が大学の教室棟の1階にあり、学生・教員にとって利用しやすい場所に位置している。また閲覧室は学習室として長時間の滞在を考慮した形になっている。

書庫は全面的に開架式を採用しており、利用者は自由に書庫内を閲覧できる。ただし、建物の形が三角形であるため、空間の見通しが悪く、図書の配架を空間的に記憶・把握しにくいという構造上の問題点が存在する。この点に関しては、すぐに解決することは難しいが、少しでも利用しやすくなるよう、図書館のホームページ上に図書配架図を掲載することで図書を探し出しやすくし、図書検索画面から直接、図書配下図にリンクできる工夫を行っている。

別表5 施設について、機器備品について を参照

開学して8年が経過し、蔵書数が増えてきている。また臨床心理学科の定員増、現代社会学科の開設など利用者も増えてきて、次のような問題が起こってきている。

- 開架式の書庫のため、スペースが必要である。従って書庫の狭さが深刻となっている。またスペースを節約するため、利用頻度の低い図書を移動書庫に保管せざるを得ない。
- 学内で他に自習できる学習スペースが少なく、学生数も増加しているため閲覧席の不足が深刻となっている。また、個人机が少ないこともあり、ゆったりとした学習環境が失われつつある。
- 図書が同じ分類内で、大学・大学院・短期大学の3つの図書館に分散し配架されるため、見つけにくい場合がある。
- 大学院図書室が大学院生の専用で、所蔵図書が洋書中心のため恒常的に利用者が少ない。大学院生も多くの資料がある大学図書館を利用している。
- 入館管理システムを設置していないので、学外者の入館がチェックできない。

以上のような問題点を解決するには、学内に点在する大学と短期大学の図書館・情報関連施設を一つにまとめた建物を建設し、組織も統合した、いわゆるメディアセンターを設置することが望まれるが、相当な費用と学園の経営にもかかわる問題なので、学園の中長期的な将来構想の中で検討していく必要があると思われる。

当面は「業務体制」の項目でも述べているが、一体的な運営を行うことにより、業務の効率化を図り、利用者にとっての利便性を高めるように、学内の3つの図書館の資料配置を見直し、各館のどのような棲み分けが可能かの検討を開始している。

また、書庫の狭隘化対策として近年他大学でも行い始めた、倉庫業者等に一部の図書の外部保管を委託することも考える時期に来ている。

#### 4. 利用状況とサービス

別表6 図書館利用状況 を参照

##### (1) 利用時間と時間外開館について

開館日数 2003年度実績 : 256日

開館時間

大学、大学院：授業日 平日9時～21時、土9時～17時 日曜日は休み

休業日 平日9時～17時、土、日曜日は休み

(参考)

短期大学：授業日 平日9時～18時、土、日曜日は休み

休業日 平日9時～17時、土、日曜日は休み

利用時間は開学当初から時間外開館を実施し、午後8時まで開館していた。2000年4月大学院図書室の開設と同時に、午後9時まで延長した。

##### (2) 学外の利用者

卒業生の図書館利用について

登録数 (2004年7月現在)

大学卒業生 : 47人(文化人類 10人、臨床心理 37人)

大学院修了生 : 20人(文化人類 3人、臨床心理 17人)

5冊2週間の貸出冊数・期間の学外図書貸し出しに加えて、データベースでの論文検索等も許可している。自宅等学外からホームページ上で利用申請紙を印刷できるようにしたこともあり、登録者数は年々増加している。臨床心理学科卒業生の利用が多いのは、大学院を受験する者や、関連分野に就職した場合に専門領域について卒業後も研究する必要があるためと思われる。

## 教育後援会の図書館利用について

2004年10月より教育後援会の図書の貸出利用を含む、図書館の利用を開始した。地域住民を対象とした一般利用者は 5. 地域貢献を参照

### (3) 学術情報サービス及び利用者教育・情報リテラシー教育

各学期の開始時期に、主に新入生を対象とするOPAC編と、論文準備中の3・4年次生を対象とする論文編の2種の利用講習会を実施している。

OPAC編は、館内施設の紹介、貸出冊数や貸出延長、利用マナー、コピー機の利用手続きの説明、短期大学図書館の利用説明(於短期大学図書館)など、オリエンテーション的に行っている。OPAC(学内蔵書検索システム)の利用説明も図書の探し方のみに絞り、詰め込みすぎは避けて基本的なことを参加者全員に理解してもらうことに焦点を当てている。

論文編は、データベース・書誌を使つての論文検索と、他大学との相互利用(文献複写・現物貸借・訪問利用)の申し込み方法の説明を主としている。

### (4) 図書館の電子化・ネットワーク化

本学図書館は開設当初から、国立情報学研究所が運営する、NACISIS-CAT(全国の大学・研究機関の総合目録所在情報サービス)に参加をしていたが、2000年10月に学内LANが整備され、図書館が持つ学術情報の電子化・ネットワーク化を積極的に進めることにした。前述の電子ジャーナル・外部データベースの導入もその一つであるが、2001年4月に図書館蔵書管理・検索システムを更新、この際の閲覧室のパソコンの整備を行った。また同時に学術ポータルサイトとして図書館のホームページを開設し、この中で学内蔵書検索(OPAC)をWeb化し学外にも公開した。

ホームページ掲載している主な記事とサービスの内容(2004年4月現在)

- 図書館利用案内(学内者・卒業生・学外一般者別)
- 利用者向けのお知らせ
- 図書の購入希望、予約、相互利用の申し込み、利用状況の確認
- 雑誌・視聴覚資料等の所蔵資料一覧
- OPAC(学内蔵書検索システム)蔵書検索システム
- オンラインデータベース検索
- 学術情報リンク集

ホームページは更新し続けないと情報がすぐに陳腐化するので、相当な労力が必要であるが、今後は教員の協力を得て教員推薦図書やレファレンスのデータベース化等さらに学術ポータルサイトとして内容を充実していきたい。

なお、これらの事業は2001年度より文部科学省 教育・学習方法等改善支援経費 - 教育・学習方法等の改善に「図書館の情報化推進」として採択されている。

### (5) 学外の図書館間の相互利用

本学は国立情報学研究所のNACISIS-ILLに加入しており、全国の大学・研究機関及び公立図書館と文献複写・図書の貸借を行っている。

別表6のように、他大学に比べると特に文献複写の依頼件数が多い。京都地区の大学のデータを見ても、薬学系の大学を除くと本学の3・4倍の学生数大学に相当している。これは臨床心理学科・研究科があり精神医学系の論文が必要になるためと、学科で費用を一定額負担していて利用しやすいと思われる。そのため、相互利用の原則を考えると、他機関からの受付に比べて本学からの依頼数が非常に多いため、本学図書館の文献複写料金を20円と低額にして他機関から利用しやすいように配慮している。さらに事務手続きの簡素化と他機関からの利用促進を図るため、2004年4月から始まったNACISIS-ILLの料金相殺制に早期の加入を検討している。

その他私立大学図書館協会京都地区協議会相互協力連絡会に加盟しており、加盟館で共通閲覧証を作成し訪問利用の手続きの簡略化を行っている。

(6) 学生アンケート

毎年卒業生は卒業時に、2～3回生は4月に図書館の利用実態調査を行っている。

別表7 学生アンケート 参照

5. 地域貢献

2002年3月より地域貢献の一環として、地域住民の図書館利用を開始している。現在利用できるサービスは、図書館内閲覧と館内資料の複写で館外貸出は行っていない。

一般学外利用者(2003年度実績)

一般登録者数(カード発行数) 16名

その他、本学公開講座受講者、「大学コンソーシアム京都」本学出講授業受講者はその受講証で利用できるように配慮している。

訪問延べ人数 154名

内訳：一般 131名

本学公開講座受講者 19名、

「大学コンソーシアム京都」本学出講授業受講者 4名、

2年ほど前から開始したが、所蔵する図書の分野が限られているので広く一般市民が教養として利用することは考えにくく、専門的な研究者・学科関連領域職の従事者の利用が中心になると思われる。

ただ登録者が年間20名足らずと非常に少ない。館外貸出が出来ないと広報にも問題があると思われるが、今後、大学全体の地域への貢献の状況と連動して、利用できるサービスの拡大を検討していきたい。

別表1 過去3年間の蔵書数

		2001年度	2002年度	2003年度	(参考)短大図書館 (2003年度)
図書	全蔵書数	62,153	70,195	80,471	105,167
	和書	45,450	50,942	60,004	93,490
	洋書	16,703	19,253	20,467	11,677
雑誌	全所蔵種類数	894	1,117	1,190	999
	和雑誌	547	774	854	934
	洋雑誌	347	343	336	65
視聴覚資料		2,688	2,943	3,228	1,286
消耗図書 (文庫・新書等)		10,895	12,118	13,466	14,445

別表2 過去3年間の受入資料数及び図書予算

			2001年度	2002年度	2003年度	
図書	総受入冊数		4,881	8,088	10,301	
	和書		4,038	5,228	9,086	
	洋書		843	2,860	1,215	
	購入	和書		3,661	3,614	7,805
		洋書		393	286	488
	寄贈	和書		236	1,462	1,199
		洋書		342	2,377	648
	その他	和書		141	152	82
		洋書		108	197	43
雑誌	総受入種類数		661	682	851	
	和雑誌		467	482	601	
	洋雑誌		194	200	250	
	購入	和雑誌		124	129	177
		洋雑誌		192	196	245
	寄贈	和雑誌		343	353	419
		洋雑誌		2	4	5
	その他	和雑誌		0	0	5
		洋雑誌		0	0	0
視聴覚資料		149	257	285		
消耗図書(文庫・新書等)		1,632	1,264	1,379		
図書館資料費(千円)		31,668	31,009	55,370		
データベース・電子ジャーナル資料費(千円)		1,898	3,160	2,591		

注：2002年度は「鶴見家」寄贈図書の受入を一括で行った。

2003年度は現代社会学科開設に伴う、臨時増

図書冊数 3,383冊 資料費 21,592円

別表3 分類別の蔵書数一覧

分類	細目	大学・院				短期大学を含んだ合計			
		和書	洋書	計	割合%	和書	洋書	計	割合%
総記		3,260	191	3,451	4.69	6,154	199	6,353	5.10
	000/総記・情報科学	318	14	332	0.45	622	14	636	0.51
	010/図書館・図書館学	121	8	129	0.18	355	8	363	0.29
	020/書誌学	101	9	110	0.15	296	9	305	0.24
	030/百科事典	130	103	233	0.32	290	111	401	0.32
	040/講演集・論文集	62	2	64	0.09	216	2	218	0.18
	050/一般年鑑	152	2	154	0.21	175	2	177	0.14
	060/博物館・博物館学	89	20	109	0.15	179	20	199	0.16
	070/ジャーナリズム・新聞・マスコミ	86	3	89	0.12	118	3	121	0.10
	080/叢書・全集	2,201	30	2,231	3.03	3,861	30	3,891	3.12
090/郷土資料	0	0	0	0.00	42	0	42	0.03	
哲学		8,096	4,026	12,122	16.46	13,048	4,152	17,200	13.81
	100/哲学全般	286	10	296	0.40	568	10	578	0.46
	110/哲学各論	249	46	295	0.40	327	46	373	0.30
	120/東洋思想	225	5	230	0.31	719	5	724	0.58
	130/西洋哲学	601	81	682	0.93	960	81	1,041	0.84
	140/心理学	4,701	2,912	7,613	10.34	4,964	2,913	7,877	6.33
	150/倫理学・人生訓	175	32	207	0.28	336	32	368	0.30
	160/宗教	747	618	1,365	1.85	1,185	619	1,804	1.45
	170/神道	58	2	60	0.08	93	2	95	0.08
	180/仏教	604	123	727	0.99	3,199	247	3,446	2.77
190/キリスト教	450	197	647	0.88	697	197	894	0.72	
歴史		6,975	1,446	8,421	11.44	12,022	1,451	13,473	10.82
	200/歴史全般	712	82	794	1.08	1,254	82	1,336	1.07
	210/日本史	1,665	9	1,674	2.27	4,128	9	4,137	3.32
	220/東洋史・アジア史	804	206	1,010	1.37	829	206	1,035	0.83
	230/西洋史・ヨーロッパ史	921	162	1,083	1.47	939	162	1,101	0.88
	240/アフリカ史	85	250	335	0.46	91	250	341	0.27
	250/北アメリカ史	230	238	468	0.64	232	239	471	0.38
	260/南アメリカ史	21	36	57	0.08	21	36	57	0.05
	270/オセアニア史・両極地方史	25	40	65	0.09	25	40	65	0.05
	280/伝記	830	138	968	1.31	2,103	140	2,243	1.80
	290/地理・地誌・紀行	1,682	285	1,967	2.67	2,400	287	2,687	2.16

分類	細目	大学・院				短期大学を含んだ合計			
		和書	洋書	計	割合%	和書	洋書	計	割合%
社会科学		20,593	6,381	26,974	36.64	34,462	6,403	40,865	32.81
	300/各国文化事情	1,501	429	1,930	2.62	1,999	430	2,429	1.95
	310/政治・外交・国際問題・自治体	1,543	699	2,242	3.05	2,104	700	2,804	2.25
	320/法律	1,135	106	1,241	1.69	1,558	106	1,664	1.34
	330/経済・企業	2,612	702	3,314	4.50	3,237	702	3,939	3.16
	340/財政	67	14	81	0.11	91	14	105	0.08
	350/統計	43	12	55	0.07	112	13	125	0.10
	360/社会・福祉・女性・労働	5,488	1,826	7,314	9.93	10,132	1,832	11,964	9.61
	370/教育・学校	3,559	453	4,012	5.45	9,389	457	9,846	7.91
	380/風俗習慣・民俗学・民族学	4,551	2,125	6,676	9.07	5,721	2,134	7,855	6.31
	390/国防・軍事	94	15	109	0.15	119	15	134	0.11
自然科学		4,593	1,234	5,827	7.91	9,493	1,237	10,730	8.62
	400/自然科学	203	22	225	0.31	625	22	647	0.52
	410/数学	128	3	131	0.18	317	3	320	0.26
	420/物理学	32	1	33	0.04	147	1	148	0.12
	430/化学	16	3	19	0.03	197	3	200	0.16
	440/天文学・宇宙科学	56	9	65	0.09	113	9	122	0.10
	450/地球科学・地学	136	21	157	0.21	299	21	320	0.26
	460/生物学・人類学・生態学	327	121	448	0.61	913	121	1,034	0.83
	470/植物学	53	26	79	0.11	294	26	320	0.26
	480/動物学	270	71	341	0.46	578	71	649	0.52
	490/医学・精神医学	3,372	957	4,329	5.88	6,010	960	6,970	5.60
技術		1,113	147	1,260	1.71	5,200	163	5,363	4.31
	500/技術・工学	95	11	106	0.14	236	11	247	0.20
	510/都市工学・環境工学	382	60	442	0.60	908	60	968	0.78
	520/建築学	161	20	181	0.25	1,057	32	1,089	0.87
	530/機械工学	40	9	49	0.07	68	9	77	0.06
	540/電気工学・情報工学	116	4	120	0.16	226	4	230	0.18
	550/海洋・船舶工学・軍事工学	19	3	22	0.03	48	3	51	0.04
	560/金属工学・鉱山工学	25	12	37	0.05	27	12	39	0.03
	570/化学工学	26	3	29	0.04	114	3	117	0.09
	580/製造工学・食品工学	76	6	82	0.11	502	8	510	0.41
	590/家政学・生活科学・美容	173	19	192	0.26	2,014	21	2,035	1.63

分類	細目	大学・院				短期大学を含んだ合計			
		和書	洋書	計	割合%	和書	洋書	計	割合%
産業		1,081	309	1,390	1.89	1,969	310	2,279	1.83
	600/産業	81	14	95	0.13	108	14	122	0.10
	610/農業	296	123	419	0.57	632	123	755	0.61
	620/園芸・造園	25	5	30	0.04	157	6	163	0.13
	630/蚕糸業・製糸	3	1	4	0.01	5	1	6	0.00
	640/畜産業・獣医学	44	16	60	0.08	84	16	100	0.08
	650/林業・森林保護	54	9	63	0.09	91	9	100	0.08
	660/水産業	43	4	47	0.06	96	4	100	0.08
	670/商業・貿易・広告	258	45	303	0.41	436	45	481	0.39
	680/運輸・交通・観光	203	76	279	0.38	250	76	326	0.26
	690/通信事業	74	16	90	0.12	110	16	126	0.10
芸術		2,723	393	3,116	4.23	8,724	446	9,170	7.36
	700/芸術・美術	538	109	647	0.88	2,085	114	2,199	1.77
	710/彫刻	32	14	46	0.06	138	20	158	0.13
	720/絵画・書	452	22	474	0.64	1,513	28	1,541	1.24
	730/版画・印章	8	0	8	0.01	85	0	85	0.07
	740/写真・印刷	113	5	118	0.16	301	5	306	0.25
	750/工芸	111	10	121	0.16	1,063	20	1,083	0.87
	760/音楽・バレエ	411	98	509	0.69	1,397	105	1,502	1.21
	770/演劇・映画・大衆演芸	672	55	727	0.99	1,143	55	1,198	0.96
	780/スポーツ・体育	349	77	426	0.58	731	95	826	0.66
	790/諸芸・娯楽	37	3	40	0.05	268	4	272	0.22
言語		2,164	1,113	3,277	4.45	3,922	1,149	5,071	4.07
	800/言語	457	360	817	1.11	630	360	990	0.79
	810/日本語	484	15	499	0.68	1,520	17	1,537	1.23
	820/中国語・東洋の諸言語	365	244	609	0.83	438	259	697	0.56
	830/英語	497	238	735	1.00	853	254	1,107	0.89
	840/ドイツ語・ゲルマン諸語	52	36	88	0.12	61	36	97	0.08
	850/フランス語	155	19	174	0.24	251	22	273	0.22
	860/スペイン語・ポルトガル語	51	26	77	0.10	55	26	81	0.07
	870/イタリア語・ロマンス諸語	21	3	24	0.03	26	3	29	0.02
	880/ロシア語・スラブ諸語	25	11	36	0.05	25	11	36	0.03
	890/ラテン語・アフリカの諸言語	57	161	218	0.30	63	161	224	0.18

分類	細目	大学・院				短期大学を含んだ合計			
		和書	洋書	計	割合%	和書	洋書	計	割合%
文学		7,008	780	7,788	10.58	13,245	783	14,028	11.26
	900/文学	499	115	614	0.83	1,577	116	1,693	1.36
	910/日本文学	2,468	7	2,475	3.36	7,581	9	7,590	6.09
	920/中国文学・東洋文学	534	30	564	0.77	546	30	576	0.46
	930/英米文学	1,446	244	1,690	2.30	1,476	244	1,720	1.38
	940/ドイツ文学	405	90	495	0.67	407	90	497	0.40
	950/フランス文学	1,219	235	1,454	1.97	1,220	235	1,455	1.17
	960/スペイン・ポルトガル文学	105	12	117	0.16	105	12	117	0.09
	970/イタリヤ文学	51	3	54	0.07	51	3	54	0.04
	980/ロシア・バルト文学・スラブ文学	185	10	195	0.26	186	10	196	0.16
	990/アフリカ文学・先住民語の文学	96	34	130	0.18	96	34	130	0.10
合計		57,606	16,020	73,626	100.00	108,239	16,293	124,532	100.00

別表4 2004年度の図書予算配分表

	項目		予算(千円)	備考
大学	備品 図書	小計	22,650	備品(図書)総額
		大型資料集	2,000	補助金対象となりえる 1set 100万円以上のコレクション
		カリキュラム用	3,400	春学期・秋学期のセメスターに対応 (和書 約1000冊)
		新刊図書	5,450	叢書・参考図書を含む
		継続図書	2,800	
		バックナンバー	1,600	
		文化人類	2,000	
		臨床心理	2,400	
		一般共通	1,500	
		現代社会	1,500	
	備品	小計	2,650	
		視聴覚資料	ビデオ、CD-ROM	2,650
	消耗品	小計	7,700	
		和雑誌	1,300	
		洋雑誌	5,000	
		新聞	450	
		文庫・新書	700	
		白書	250	
	合計		33,000	
大学院 臨床心理	備品 図書	小計	950	
		消耗品	小計	2,058
	和雑誌		258	
	洋雑誌		1,800	
	合計		3,000	
大学院 文化人類	備品 図書	小計	350	
		消耗品	小計	650
	和雑誌		0	
	洋雑誌		650	
	合計		1,000	

別表5 施設について、機器備品について

		大学図書館 (普照館)	大学院図書室 (常照館)	短期大学図書館 (至道館) - 参考 -
面積	総延べ面積	1,455 m <sup>2</sup>	389 m <sup>2</sup>	625 m <sup>2</sup>
	閲覧スペース	729 m <sup>2</sup>	177 m <sup>2</sup>	211 m <sup>2</sup>
	視聴覚スペース	57 m <sup>2</sup>		
	情報機器スペース	56 m <sup>2</sup>		
	書庫	479 m <sup>2</sup>	138 m <sup>2</sup>	315 m <sup>2</sup>
	事務室	95 m <sup>2</sup>	46 m <sup>2</sup>	71 m <sup>2</sup>
	学習室		28 m <sup>2</sup>	
	その他(エントランス等)	29 m <sup>2</sup>		28 m <sup>2</sup>
座席数	閲覧席	141 席 (一人机 21 を含む)	19 席 (一人机 7 を含む)	140 席
	その他 (視聴覚・情報機器スペース、学習室等)	100 席	26 席 (学習室)	

## 機器・備品について

		大学図書館 (普照館)	大学院図書室 (常照館)	短期大学図書館 (至道館) - 参考 -
情報機器	パソコン	33	4	9
	内、蔵書検索専用	13	2	6
	プリンタ	2	1	1
視聴覚機器	テレビ+ビデオ	20		2
	DVDプレーヤ	5		
	マイクロフィルムリーダー	2		
	拡大機	1		

別表6 図書館利用状況

		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
奉仕対象	学内利用者	2,829		3,108	3,061
	内、学生	1,394	1,484	1,572	1,647
	内、短期大学生	1,139	1,186	1,170	1,034
	内、教職員(大学+短期大学)	296	174	366	380
	その他(学外利用者)	0	22	48	164
図書館入館者数(延数)			149,921	164,373	
館外貸出冊数	総数	32,359	33,433	34,473	
内分	大学学生	28,231	29,559	29,512	
	大学教員	824	596	612	
	短期大学学生	2,490	2,081	2,455	
	短期大学教員	98	155	221	
	職員(大学・短期大学)	436	622	825	
	学園その他	8	0	58	
	学外者(卒業生等)	272	420	790	
(短期大学図書館)	大学利用総数	1,752	1,829	1,811	
内分	大学学生	1,658	1,767	1,760	
	大学教員	94	62	51	
学生一人当りの貸出冊数	(大学+短大の貸出総数)/学生数	21.44	21.11	19.89	0.00
参考業務(レファレンスサービス)					
受付件数	教職員	555	4	24	
	学生	544	214	484	
	学外者	23	6	22	
内容	文献所在調査	222	77	140	
	事項調査	437	19	33	
	利用指導	463	75	253	
	その他	0	60	104	
文献複写件数	学内	19,591	6,012	4,945	
	学外者	299	359	393	
	コピー枚数	97,957	82,624	64,341	
図書館間相互協力					
図書 貸出冊数	総数	74	115	104	
内分	大学図書館	69	101	84	
	その他(公共図書館等)	5	14	20	
借受冊数	総数	57	33	39	
内分	大学図書館	51	27	35	
	その他(公共図書館等)	6	6	4	
文献複写 受付件数	総数	299	390	575	
内分	大学図書館	288	381	509	
	その他(公共図書館等)	11	9	66	
依頼件数	総数	1,310	1,658	2,029	
内分	大学図書館	1,247	1,544	1,995	
	その他(公共図書館等)	63	114	34	

大学学生は学部生・大学院生に科目等履修生・研究生を含む  
 教員及び教職員は専任教職員に非常勤講師を含む

別表7 学生アンケート

問1. 図書館全体についての満足度はどうでしたか。										
選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
大変満足	39	14%	17	8%	8	8%	40	17%	104	13%
どちらかといえば満足	92	34%	67	31%	38	40%	95	40%	292	36%
普通	39	14%	43	20%	26	27%	-	-	108	13%
どちらかといえば不満	100	37%	90	41%	21	22%	29	12%	240	29%
大変不満	0	0%	0	0%	3	3%	71	30%	74	9%

4割近い学生が何らかの不満を持っている。

問2. 図書館の利用頻度は。										
選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
ほぼ毎日	21	8%	36	17%	15	16%	25	11%	97	12%
週2・3日程度	71	26%	74	34%	37	39%	69	29%	251	31%
週1回程度	86	32%	59	27%	30	31%	54	23%	229	28%
月1・2日程度	78	29%	41	19%	11	11%	73	31%	203	25%
ほとんど利用しなかった	15	6%	8	4%	3	3%	14	6%	40	5%
全く利用しなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

5%の学生がほとんど利用していない。

問3. 図書館の貸出利用について。										
選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
よく利用していた	44	16%	53	25%	35	37%	63	28%	195	24%
時々利用していた	203	75%	154	72%	56	59%	159	69%	572	71%
全く利用しなかった	22	8%	7	3%	4	4%	7	3%	40	5%

5%の学生が全く利用していない

問4. 人類学・心理学(精神医学を含む)の専門分野以外で、充実して欲しい分野はど ですか。(複数回答可)										
選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
教育・福祉	119	24%	99	25%	41	21%	86	23%	345	24%
政治・経済・法律	61	12%	38	10%	29	15%	52	14%	180	12%
文学・芸術	125	25%	102	26%	54	28%	96	26%	377	26%
資格・就職	179	36%	138	35%	51	27%	132	35%	500	34%
その他	18	4%	20	5%	17	9%	9	2%	64	4%

教育・福祉・文学・芸術それに34%の学生が資格・就職関係を増やしてほしいと回答している。

問5．図書館は情報収集の場として利用しやすい環境でしたか。										
選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
はい	135	51%	114	54%	58	61%	154	66%	461	57%
いいえ	30	11%	31	15%	13	14%	29	12%	103	13%
どちらでもない	99	38%	68	32%	24	25%	51	22%	242	30%

問6．図書館で充実して欲しい情報収集機能の項目を回答番号に1を記入ください。（複数回答可）

選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
図書・資料	200	44%	171	41%	77	43%	131	36%	579	41%
学術データベース（電子ジャーナル）	50	11%	63	15%	29	16%	68	18%	210	15%
ビデオ・DVDなどの映像ソフト	92	20%	91	22%	30	17%	89	24%	302	21%
パソコン・VTR等の情報機器	83	18%	64	15%	21	12%	58	16%	226	16%
利用相談（レファレンス）	33	7%	33	8%	23	13%	23	6%	112	8%

やはり本やビデオが少ない印象をもっている。

問7．図書館は学習環境として利用しやすかったですか。

選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
はい	171	64%	127	60%	49	52%	156	68%	503	63%
いいえ	38	14%	37	17%	20	21%	24	10%	119	15%
どちらでもない	57	21%	49	23%	25	27%	50	22%	181	23%

問8．図書館で充実してほしい学習環境の回答番号に1を記入ください。（複数回答可）

選択肢	2回生		3回生		4回生		卒業生		合計	
座席数を増やす	175	22%	130	19%	56	19%	115	22%	476	21%
個人用ブース	157	20%	133	20%	56	19%	111	21%	457	20%
グループ学習室	97	12%	79	12%	28	10%	48	9%	252	11%
開館時間の延長	101	13%	95	14%	41	14%	88	17%	325	14%
貸出冊数・期間の延長	74	9%	72	11%	46	16%	60	11%	252	11%
ノートパソコン用のLAN端子	119	15%	94	14%	31	11%	58	11%	302	13%
利用者のマナー向上	54	7%	72	11%	26	9%	51	10%	203	9%
その他	6	1%	5	1%	6	2%	2	0%	19	1%

座席・個人ブース・グループ学習室等設備面での要望が多い。